

美 術 の 宣 揚

いづみ かわ りょうのすけ
泉 川 良之助

(92才)

泉川氏は、横手市に生まれ、郷里にあつて独り自ら南画に修行をつみ、中央に出てさらに研鑽と努力をかさね幾多の文人墨客と交わり、声名を馳せた。氏は旧来の南画に近代感覚をとり入れた新南画を創立し、県内あるいは東京において屢々個展を開き、特に数寄屋日動画廊における新南画、水墨蘭花個展が洋画界から絶賛されるなど、すぐれた作品を制作された。

また書においては、日、満、支三国連合の興亜書道展において第一位を獲得し、審査員となり、文化使として大陸派遣を命ぜられてその任を果たすなど輝かしい活躍をしている。なお氏は、現在なお自らの制作活動のほか県内外の後進の指導にあたり本県文化の向上に寄与している。



農業の研究指導

たか 高 はし 橋 しげ 繁 ぞう 造

(75才)

高橋氏は、湯沢市相川に生まれ、小学校卒業と同時に農業に従事し、以来今日に至るまで50有余年農業とともに生き、現在なおその研鑽につとめている。

明治35年以来川原毛鉦山の毒水により須川地区 350 ヘクタールの水田は、毎年甚々しい被害をうけていたが、氏はこれを独力の土地改良事業により毒水と湿田の被害を排除し、この効果を近隣に広め、耐冷耐病品種の育成を多年にわたって研究され、仮称「須川12号」「穀の玉」などの新品種の育成に成功し、これを冷害地区に無償配付して、自らその栽培指導にあたり生産増強に尽くした。

なお氏は、大正元年から昭和28年まで連続42回種苗交換会の談話会員として、本県農業の進歩発展につとめた。



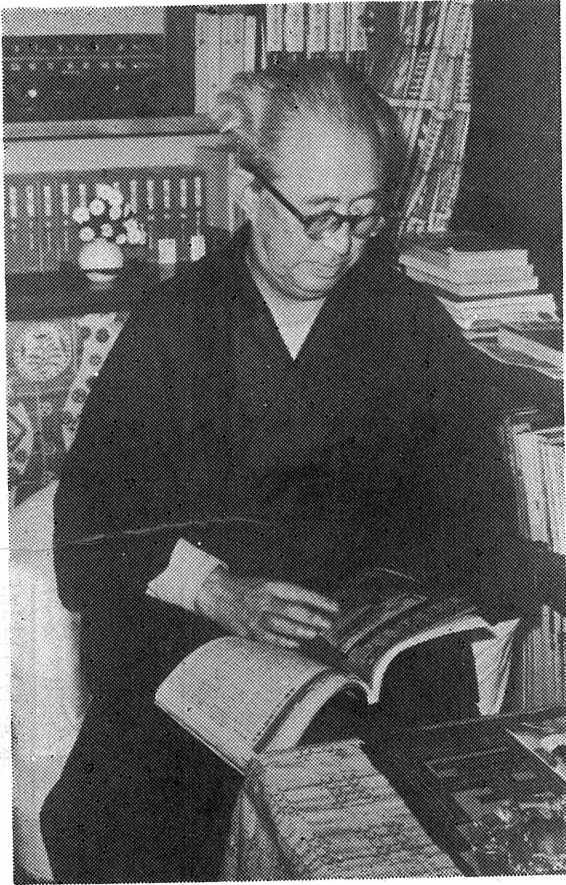
保健衛生と社会福祉

ふじ わら う さぶ ろう
藤 原 宇 三 郎

(73才)

藤原氏は、羽後町下仙道に生まれ、大正2年愛知医学専門学校を卒業後、岐阜県立病院に勤務し、大正8年帰郷して同地に開業し現在に至っている。

氏は開業以来地域の診療活動に尽力し、ことに貧困家庭患者の往診、治療に際しては、報酬をかえりみず、事情によつては、見舞品まで与えるなど、農村へき地の福祉と保健増進に尽くした。特にトラコーマ予防、回虫駆除については、児童生徒は勿論成人層に至るまで、自費を投じてその向上につとめ、更には学校図書を設置、あるいは医療器具等数多く寄付し、その充実につとめたほか、貧困子弟進学のため奨学資金を設けるなど、その篤行は広く知られており、へき地医療と社会福祉に大いに寄与している。



地方文化の向上

こむらせい いちろう
古村精一郎

(71才)

古村氏は、秋田市十軒町に生まれ、

大正5年から20有余年旧制秋田中学

校、湯沢高等女学校などに教鞭をと

り子弟の教育に尽くした。教育界を去つてからは、秋田魁新報社にむかえられたが、

言論統制のきびしかつた戦時中から終戦にかけては、同社の社長として言論報道界に

尽くし、また戦後印刷学校を創立、産業教育にも尽力しているほか、世相混沌たる終

戦から今日に至るまで、常に不偏不党の精神に立脚し豊かな教養と愛情をもつて文筆

に、講演に卓説をのべて広く県民の指導に当られて本県文化の向上に寄与している。



芸能の研究と普及

かき ざき シ ヨ
柿 崎

(66才)

柿崎氏は、横手市に生まれ、大正2年頃より家業の芸妓となり、昭和7年これを廃業して松生派盛花教授として現在に至っている。

氏は古くから伝わり口三味線で唄い踊られていた「岡本ヨ」を研究し、三味線伴奏を行ない、幾多の工夫をこらし、ついに哀怨きわまりない俗曲「岡本新内」を完成された。昭和12年東京中央放送局より全国放送し、その真価を問うたが絶賛を博し、一躍秋田の「岡本新内」の地位を築き芸能秋田の名を高めるに至った。以来、努力を怠ることなく、今日いよいよその芸域をひらめ本県芸能界に寄与している。



秋田酒の品質改良

つる　　た　　もも　　じ
鶴　　田　　百　　治

(65才)

鶴田氏は、秋田市檜山南新町に生まれ、小学校を卒業とともに農業に従事し、そのかたわら清酒醸造元の

季節労務者となつて酒造を手がけた。大正11年清酒新政醸造元の麴師として入社し、後に杜氏となり、昭和4年秋田県醸造試験場長花岡正庸氏の指導をうけ、清酒の革命といわれる近代的醸造法すなわち速醸酏の研究に専心し、優良な酵母の育成に成功した。これが大蔵省醸造試験場に認められ、昭和10年日本醸造協会が、氏の育成した酵母を「第6号酵母」と名命し、以来今日に至るまで連綿30年にわたり、全国に使用されている。また本県杜氏組合連合会の会長として杜氏の育成指導と会の運営発展に尽くされ、清酒の品質改良に寄与している。



地 下 資 源 の 開 発

ふじ おか かず お
藤 岡 一 男

(53才)

藤岡氏は、岡山県に生まれ、昭和12年北海道帝国大学理学部地質鉱物学科を卒業され、昭和17年秋田鉱山専門学校教授となつた。

氏は多くの有能な技術者を養成したほか、専門分野の研究に関しては、長期にわたつて男鹿半島、阿仁炭田及び秋田油田地域の地質研究をすゝめ、新第三系の地史をあきらかにした。これらの基礎的研究をもとに本県の石油、天然ガスの探査開発の研究を一貫しておこない、また最近では、北鹿地域など金属鉱床の研究により黒鉱鉱床の探査に貢献するなど、学問を通じて本県の地下資源開発に寄与している。